



米子市福市考古資料館通信

第11号

2023年12月



企画展3「米子の考古名宝展」を開催します。

福市考古資料館では、令和6年2月14日（水）から企画展3「米子の考古名宝展」を開催します。

米子市が所蔵している数多くの考古資料の中でも「これは！」という資料を厳選し、紹介します。普段ではあまりお目にかかれない資料を一堂に展示します。

会期は、令和6年3月31日（日）までとなっております。観覧料は無料ですので、是非、この機会にご観覧ください。

米子市福市考古資料館 企画展3

米子の考古名宝展

米子市が所蔵している考古資料の中でも「これは」という資料を厳選し、紹介します。



石州府29号墳出土 獸帯鏡

開催期間 令和6年2月14日（水）～3月31日（日）
会 場 米子市福市考古資料館
開館時間 9：30～17：00（最終入館16：30）
休館日 毎週火曜日 2月26日（月） 3月21日（木）
観覧料 無 料

問
合
先

米子市福市考古資料館
米子市福市 461 番地 20
TEL 0859-26-3784
(FAXは同番号)

- 開催期間 令和6年2月14日（水）～令和6年3月31日（日）
- 開館時間 9：30～17：00（最終入館16：30）
- 観覧料 無 料
- 休館日 毎週火曜日 2月26日（月） 3月21日（木）

展示品紹介 鶏形土製品（福市遺跡）

展示室では、福市遺跡から出土した古墳時代の鶏形土製品を展示しています。

鶏型土製品は、鶏をかたどった土製品で、このように鶏をかたどったものには、古墳に立てられた鶏形埴輪があります。『日本書紀』の「天岩戸」の「常世長鳴鳥（とこよのながなきどり）」にもあるように、当時の人々にとって太陽の復活と信じられた朝日は鶏が鳴いて初めて登ると考えられていたことが窺えます。おそらく、人々は夜明け前に鳴く雄鶏の不思議な能力に畏敬の念を抱き、鶏は太陽神（日神）信仰を支えた時告鳥（ときつげどり）として重要視されたと考えられます。

福市遺跡から出土した鶏形土製品は、裾が広がる円筒形の台の上に乗っており、頭部には立派な鶏冠（とさか）があり、尾部が大振りであることから、雄鶏と考えられます。また、くちばしの先端には切り込みを入れ、くちばしの下にある肉髯（にくぜん）は線刻、目は刺突によって表現しています。さらに、脚部の前方には突起があり、足の蹴爪（けづめ）を表現しています。

福市遺跡からは、動物をかたどった小型の土製品として、この他に犬（鹿？）があり、これらは集落の祭祀に使用されたと考えられます。



鶏形土製品

福市遺跡の四季

福市史跡公園には、様々な木が植えられており、四季を通じて我々の目を楽しませてくれます。

春は桜、初夏はツツジが色鮮やかに咲き誇りますが、秋は公園の入口のモミジが紅葉し、公園内のイチョウも黄色くなり、秋ながらの風情を醸し出しています。

また、イチイガシやスタジイ、コナラの木などが多くの実をつけ、ドングリ拾いをすることができます。



秋の福市史跡公園

発行者 米子市福市考古資料館（指定管理者 一財・米子市文化財団）
住所 〒683-0011 米子市福市461-20番地
電話・fax 0859-26-3784（同番号）
休館日 火曜日・祝祭日の翌日・年末年始（12/29～1/3）